

発刊によせて

ライオンズ国際協会302-W3地区

北九州西ライオンズ・クラブ前会長

高山久三郎

宇宙に空気があるから音が生れ、我々に耳がある。我々に耳があるから音がほしい。そこにろう者の哀しみと正常者の愛情が生まれるのである。

ろう者間では「口話法」とか「手話法」で結構話は通じるが、ろう者が一旦正常者に立ち向うと、そんな方法はてんで物の役にたたない。道を聞きたくても聞けない。物を買いたくても、なかなか思うように買えない。そんな時非常に助かるのが通訳である。

我が国から外国に行った人や、外国から我が国に来て、一番痛切に感じることは、通訳の有難味とのことである。正常者にとっても、通訳はそのように貴重な存在である。ましてや音が聞えず、一言半句も話せないろう者に通訳があったならば、どんなにか助けとなり、有難いことであらうか。

然し、ろう者の通訳を養成するには、それに適した本が入用だ。「手話法」は練習が難しくて、しばらく使わないとすぐ忘れてしまう。

そこで、映写法とまではいわないが、せめてパノラマ式の写真の練習帳にしておけば、常時たやすく練習が出来、手法を忘れる率が少い。

だが、その写真の練習帳を作るには、多額の資金がいるので、困り果

てている。

以上のようなお話を、北九州身体障害者協会会長の中野湊氏から承ったので、早速西クラブ会員の皆に回ったところ、満場一致で、その本を作ってあげようということになり、ここに「言葉と手話の葉」が世に出ることになった。

この本を御使になられる方は、一層ご勉強の上、ろう者のため、社会のため、お尽し下さいますよう、心から御願い申しあげる。